

この通信は、創成東地区におけるまちづくりの取組を地域の皆様にお伝えするために、札幌市が発行するものです。

平成30年度 創成東地区まちづくりフォーラム

平成26年度に始まった「創成東地区まちづくりフォーラム」も今回で第5回となりました。今回のフォーラムは、「未来につなげる創成東地区」を副題として開催させていただきました。

10月に開催した実証実験『創成東地区「まちのリビング」』の実施結果、並びに、この成果を踏まえ、今年度よりスタートした「創成東地区プレイスメイキング研究会」にて議論してきた内容についてご報告させていただきます。

これらを踏まえ、後半のトークセッションでは、次年度以降の創成東地区プレイスメイキングのさらなる展開に向け、研究会メンバーと会場の皆さんによる議論を行いました。



実施概要

- 日時：平成31年3月22日（金）18:30~20:30
- サッポロファクトリールーム（中央区北2条東4丁目）
- 参加者数：20名
- 主催：札幌市 まちづくり政策局 都心まちづくり推進室

1 活動報告

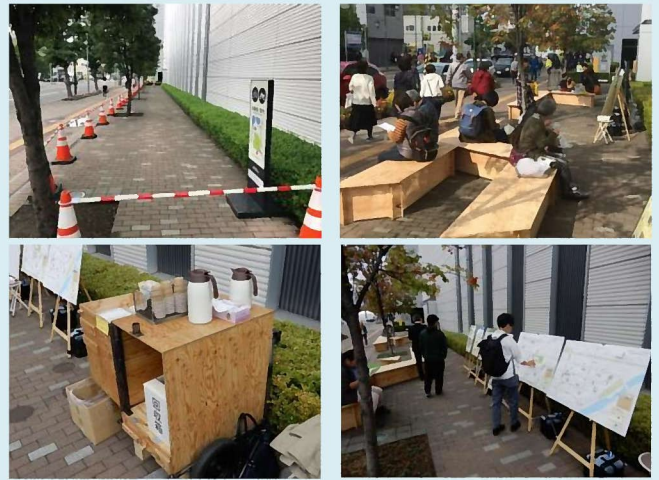
『創成東地区プレイスメイキング』の取り組み

1

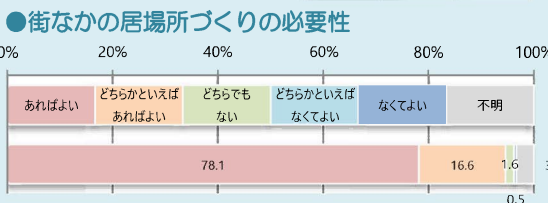
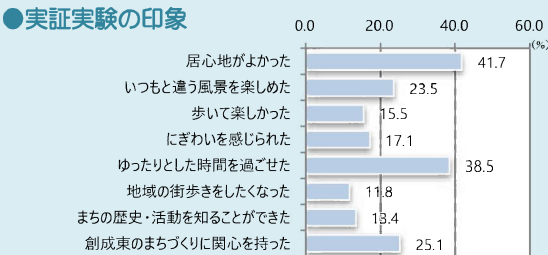
実証実験 創成東地区「まちのリビング」の実施報告

実施概要

- 日時 平成30年10月14日（木）~17日（日）
- 場所 サッポロファクトリーフロンティア館横 公開空地
- 実施プログラム
 - ・滞留装置（木製ベンチ）の設置
 - ・地区の歴史、町内会をはじめとするまちづくり活動に関するパネル展
 - ・移動式屋台の設置（試飲コーヒーの提供）
 - ・アンケート調査の実施（来場者アンケート、地区のお気に入りの場所や東4丁目線道路断面の考えに関するパネルアンケート）
 - ・その他、滞留調査、通行量調査の実施



◆実証実験の成果（利用者の印象）◆



人通りのある動線上に「居場所」があると良い

- 東4丁目線は通勤、来街者の移動の主要な動線であり、こうした通りに居場所を創ることで、人々の目に触れ、何気ない立ち寄り、滞留が生まれる

「点」ではなく「線」となることで効果を発揮する

- 実証実験期間中は近接地にて大規模なイベントが実施され、その来場者による利用が数多くあった。こうした連携を生むことで相乗効果が発揮される。

敷居が低い、自由な利用が出来る場が滞留を生む

- 特に使い方も規定しない装置・空間があると、思い通りの使い方が出来る、誰かが使うと自分も使いたくなる。

創成東地区にはプレイスメイキングが有効かつ必要な取組！



～これからの創成東地区まちづくりの実践の基本的なテーマ～

創成東地区のエリアリノベーションの実践

このまちで暮らす・働く・訪れる子どもから、お年寄りまで、誰もにとっても想いのある居場所（屋内外）を創り、つなげることで、まちで過ごす楽しさを感じる街並みを生み、皆さんの記憶に残る特別な場所にしていくまちづくりを進める

通り沿いの居場所づくり・沿道の魅力づくり

- 通り沿いのベンチや移動屋台、ワークショップなど、憩う・楽しめる場づくり



子どもから大人まで、まちから学ぶ、まちに関わる場づくり

- 職業体験やまち歩き、ゴミ拾い競争など、まちを題材に、まちへの愛着を育む



街なかの公共的な空間を活かす、生み出すための取組

- 公園の新しい使い方や通りの暫定的な広場化など、まちの資源を使いこなす



2 パネルディスカッション

まちなかの居場所づくりを進めるために

創成東地区プレイスメイキング研究会の丸山勇一氏（東北連合町内会）、中川剛士氏（サッポロ不動産株式会社）、川上慈英氏（株式会社オレンヂカンパニー）、栗田敬子氏（NPO 法人エコ・モビリティサッポロ）、柴田寿治氏（一般社団法人さっぽろ下町づくり社）の5名のパネリストをお招きし、「まちなかの居場所づくりを進めるために」と題して、創成東における空間活用の方向性等についてディスカッションを行いました。



創成東らしさを活かした空間の活用方法とは？

- 【丸山】知られていない地域資源が残っており、まちにとって大事な歴史を守る。
- 【中川】子育て世代、子どもの方々と共に新しいものづくり文化の在り方を考える。
- 【川上】昔から続く小さな企業が多いので、子どもたちが仕事を体験できる機会を増やす。
- 【栗田】他のエリアと違った札幌の魅力を、歩いて発見できる機会を増やす。
- 【柴田】町内会の活動に関わることができない事業者などが活動を認識し、参加する。

活動を継続的に行うために必要なこととは？

- 【丸山】子どもが地域に興味を持って参加できる工夫、ボランティア・事業者の連携が必要。
- 【中川】目先の利益ではなく、長い目で見た時の成果を意識する。そのためには地域と企業が話し合える環境が必要。
- 【川上】気が付いていない魅力が多くあるため、独特の着眼点を持つ方の講義を開くなど、魅力を再発見し続ける機会を設けることが必要。
- 【栗田】自分が関わる時の役割や意味の理解、チャレンジをサポートする体制が必要。
- 【柴田】「だれかがやってくれる」と考えるのではなく、自分の出番を探して欲しい。事業者が活動に参加するメリットを明確にすることが必要。

会場からの声

【まちに必要な居場所とは？】

- ◎住むことで魅力を感じることができる場
- ◎多世代が交流する場
- ◎学ぶ場所が必要
- ◎健康づくり、スポーツができる場

- ◎自由に使える場
- ◎休憩できる場
- ◎外で大きなイベントを行う場
- ◎他地区住民・観光客が行ってみたい場
- など

【お問い合わせ】創成東地区まちづくりに関するご意見、ご提案、ご質問等ございましたら、下記までお知らせください。

札幌市 まちづくり政策局 都心まちづくり推進室 担当 山田 松本

TEL 011-211-2692 E-mail ki.downtown@city.sapporo.jp



さっぽろ市
02-B02-18-2826
30-2-1709